

ご主人によると、空点庵というお店の名前は「色即是空」の「空」、宇宙（空）の中の一「点」にある小さな「庵」ということだそうです。清水を使ったふわふわのかき氷、さわやかな甘みのわらび餅などがおいしく食べられる茶房です。是非、広島に行かれる際は、三瀧寺に参詣し、三滝山を散策し、ちょっと歩き疲れたら、空点庵さんで甘味を堪能してみたいはいかがでしょうか。

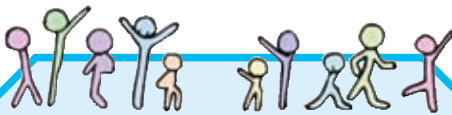


空点庵さんのかき氷とわらび餅とアイスコーヒー

留学生が紹介「広島のおすすめの場所」その2:

<https://www.facebook.com/HSUInternationalAC/videos/2398997397053246>

※件の留学生グループが作成した空点庵さんを紹介する動画※



中国の大学で留学生生活を送ること

文学部 臼田 真佐子

愛大には交換留学の制度があり、学内の試験に合格すると、中国語圏でいえば中国、台湾への留学が可能となる。2020年春頃から感染症のため、交換留学の試験に通っても留学が叶わない状態が続いており、教員としても残念に

思っている。短期セミナーという自費で語学研修をする制度があっても、中国の場合ここ数年希望者が少なく、実施されていない。

中国の大学は9月に新学年が始まる。次の年の春節を境に、学校によって多少違うが、一か月程度の休みがある。春節は旧暦によるので年によって異なり、1月下旬から2月中旬あたりになる。7月頃には卒業式が行われる。

2019年9月初め、上海の復旦大学図書館に行き、古籍を閲覧した。ちょうど新学年が始まった時だった。1989年9月初めに復旦に留学に来たことを懐かしく思い出した。今回は古籍閲覧に来ただけで、お昼をどうするかということは頭を悩ます。学内の食堂は学内者しか利用できないシステムで、チャードカードが必要なのが普通である。それで、学外に行くことになる。幸い上海にはお店がたくさんあり、復旦のキャンパスから少し歩くと、日本料理の店が開店したばかりで、そこにも立ち寄った。そして、驚くことに図書館入口の横にカフェまで開店していて、座席は結構埋まっていた。復旦に留学していた時、そのようなカフェはなかったし、留学後何回か図書館を利用した時もあった。つい最近で来たようだ。

上海だと今では留学生宿舎に住まなくても、学外のマンションを借りることもできると聞く。私が留学した時は留学生宿舎に全員住み、原則2人部屋なので、1人部屋にしたいときは奨学金から引いてもらうことになるが、部屋代を差し引くと手元には食費に足りるか足りないか程度しか残らなかった。学費は免除で、これは大変ありがたいことである。食事は留学生食堂が朝昼晩と開く。自炊もできるが、調理場と冷蔵庫は共同で、時間帯によっては順番待ちのこともある。お湯は給湯器があり、自分で沸か

さなくてもいいので、手間が省ける。上海あたりだと普通冬は暖房を入れないが、今思うと留学生は暖房が効きすぎるほどで、窓を開けたこともあり、とても優遇されていたに違いない。

中国人学生は学内に宿舎があり、そこに住む。北京大学だと中国人学生の宿舎から教室や図書館まで大変近い。2008年の4月初めから在外研修で北京大で研修したが、学内のホテルタイプの宿舎を1年借りて、そこに住んでいた。テレビも冷蔵庫もあったが、ルームカードを抜くと冷蔵庫の電源も落ちて、一晩くらい何かを入れて置くにはちょうど良い。中国人学生は全寮制で、キャンパス内に宿舎が何棟もあって、食堂も何か所もあり、朝昼晩と開く。私もチャージカードを持っていて、学内の食堂をあちこち利用した。

2019年3月、北京大学図書館に古籍閲覧に行き、お昼は学内のカフェにした。ここならキャッシュで支払いができる。窓の外には新しくなった学生宿舎が見えた。たぶん1部屋数人で、親元を離れて全国から学生が集まって、助け合って暮らしているのではと想像する。家が北京でも週末だけ帰宅したという話も聞いている。宿舎は手狭で、勉強は空いている教室や図書館でするけれど、通学時間もかからず、自炊



北京大学・図書館古籍分館（2019年3月）

の必要もなく、クラスメートとの密な交流もできて、異国の学生生活には学ぶべき点が多い。

中国の大学には学生や留学生用の宿舎が完備しているだけでなく、专家楼という招聘教員の宿舎やホテルタイプの宿舎を備えているところが多い。中国で学会があると、ほとんど学内の宿舎に全員泊めてもらう。北京大学、山東大学威海分校、南昌師範大学、山西大学、厦門大学、陝西師範大学等、大学のキャンパス内に宿泊して学会に参加し、朝から晩まで研究者と交流した。

大学のキャンパス内に宿舎があって、そこから教室に徒歩か自転車で通う。他の学生とも顔を合わせる機会が多い。そういう留学生生活を若い時に送るという経験は、その後振り返っても良い思い出となり、生きる上で示唆も与えてくれる。コロナの収束までは海外渡航もままならないが、再び中国、台湾に赴き、学生諸氏も教員も有意義な学習活動や学術交流を行いたいものである。



復旦大学・光華樓（2019年9月）